

# R 6 能登半島地震からの 学校の復旧・再開等の対応について

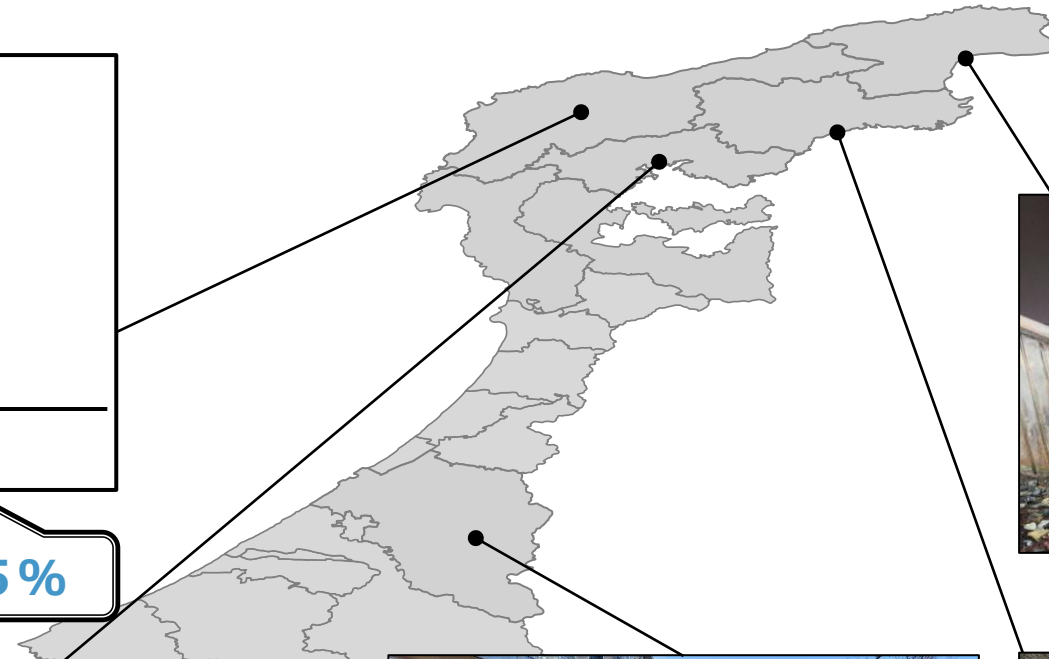
# 県内公立学校の被害状況

## ○ 奥能登地域を中心に、全県的に学校の敷地・設備等に被害が発生

### <被害を受けた公立学校>

小学校	200校中	164校
中学校	84校中	70校
義務教育学校	3校中	2校
高等学校	45校中	45校
特別支援学校	12校中	11校
計	344校中	292校

全体の約85%



飯田高校（地盤沈下）



輪島高校（校舎継ぎ目破損）



穴水高校（通学路崩落）



金沢北陵高校（法面崩落）



能登高校寮（敷地崩落）

# 被災地の児童生徒へのこれまでの対応

## ○ 被災した生徒の学びの継続・改善に向け、学校現場のニーズをきめ細かく把握し、必要な支援を実施

### ① 中学生の集団的避難

輪島市の中学生の受け入れ

受入先：白山青年の家、白山ろく少年自然の家

避難者数：258名

避難期間：1/17～3/22

珠洲市、能登町の中学生の受け入れ

受入先：医王山スポーツセンター

避難者数：102名、40名

避難期間：1/21～3/8、3/21

### ② 高校生を対象とした2次避難所の開設

能登6市町に在住の県立高校生を対象に、2次避難所を開設

高校生：55名

避難期間：1/15～2/28

### ③ 奥能登地域の小中学生に向けた学習支援

学校の始業が遅れている奥能登地域の小中学生を対象に、3学期の学習内容に関連する参考動画や確認問題をホームページに掲載

### ④ 被災地外に避難した高校1・2年生を対象とする地元大学と連携した学習機会の確保

金沢大学と連携して学習の場所等を提供

期間：2/2～3/15（平日9時～15時）

会場：石川県文教会館

内容：在籍高校のオンライン授業 または 自習  
高校教員による対面授業

※金沢大学が学生ボランティアの活用や昼食・飲料の提供など運営を補助

### ⑤ 避難した受検生のための高等学校入学者選抜における別検査会場の開設

原則、奥能登2市2町から避難している受検生が対象

検査会場：教員総合研修センター

※志願先高校の検査科目に面接 または 適性検査がある場合は志願先高校で受検

### ⑥ 被災学校への教員の派遣

教員の被災や集団的避難により、教員が不足する学校に職員を派遣

派遣校数：小中学校16校

期間：2/5～3/21

# 被災地の児童生徒へのこれまでの対応

## ⑦ 学校再開に向けた支援チームの派遣

学校再開や防災の専門知識を有する6府県の「学校支援チーム」を被災学校に派遣

派遣人数：259名

支援例：学校避難所の運営、児童生徒の心のケア

## ⑧ 被災した児童生徒・保護者へのケア

・心のケアや進路・学習相談のため、小・中学校生や高校生、保護者を対象とした電話相談窓口を設置

設置期間：1/15～3/29

・学校のニーズに応じて、スクールカウンセラーを追加派遣

派遣期間：1/26～

派遣人数：延べ524名（3月末時点）

## ⑨ 支援を必要とする団体と支援を提供できる団体をつなぐポータルサイトの開設

被災した子供たちの学びを円滑に再開させるため、民間事業者と連携し、支援を要請、提案する団体をつなぐサイトを設置

## ⑩ 県立中学校・高等学校に関する手数料等の減免

・授業料については、家屋の流出、全壊または半壊、全焼または半焼、床上浸水の被害を受けた、就学支援金の対象とならない生徒の授業料を免除

（免除期間：令和6年1月～令和7年3月分）

・その他、入学検定手数料や入学手数料の免除も実施

**こうした取組みに加え、学校施設において、教育活動に必要な応急復旧を最優先で実施**

**R6新学期を迎え、県内の全ての公立学校で、通常授業を再開**

**（一部の学校は近隣の学校を間借りしての授業やオンライン学習の併用を実施）**



# 能登6市町の公立学校での現在の主な取り組み

## 1. 県立学校施設の復旧

- 各校で仮復旧工事を行ったところであり、今後は、被災度区分判定調査の結果を踏まえ、**各校の建物の被害状況に応じて、建物基礎の調査や実施設計を行い、早期の復旧工事を目指す**

※被害の大きかった学校に対し、文部科学省と連携し、建替え要否を判定する被災度区分判定調査を実施  
(調査期間：2/15～3/15)

## 2. 教職員のための居住施設の整備

- **奥能登2市2町の公立学校に新たに勤務する教職員の仮設宿舎を建設**

・穴水町の協力により、旧向洋中学校のグラウンドに建設予定  
・仮設宿舎には、県立学校及び市町立学校の教職員が入居

## 3. 高校生の学びの継続

- **被災地外に避難している高校生を対象とした学習環境の確保**

・奥能登2市2町の県立高校に在籍し、被災地外に避難している高校生を対象に、内灘高校に通学して在籍校のオンライン授業を受ける場を確保

利用者：20名（飯田高校、輪島高校）5/20時点

※通学距離の都合などにより、内灘高校に通えない生徒に対しては、近隣高校でオンラインなどを行うことで学習環境を確保



オンライン授業の様子

# 能登6市町の公立学校での現在の主な取り組み

## 4. 被災した児童生徒の心のケア

- 奥能登の学校に配置するスクールカウンセラーを、前年度の約2倍の20名に増員
- 避難先から内灘高校や近隣の高校に通学している生徒に対して、オンラインによる朝の会などで教育相談に取り組むほか、奥能登の高校教員が内灘高校に出向き、直接、生徒と面談を実施
- 転校した児童生徒に対しては、学級担任による面談や声かけを行うほか、必要に応じてスクールカウンセラーが面談を実施

## 5. 給食の再開

- 能登6市町の小・中学校で完全給食を再開  
※七尾市（特別支援学校1校）では、調理場被災のため、簡易給食を提供



再開した学校給食

## 6. 体育授業の再開、部活動支援

- 被害が大きい学校では、
  - ・体育館やグラウンドが損傷
  - ・体育館が避難所となっている
  - ・グラウンドに仮設住宅が建設されているなどから、発災前と同じような活動はできていない状況
- ☞ 体育の授業等のために必要な『応急仮設グラウンド』の造成工事を災害復旧事業の対象に追加
- ☞ 県立学校の部活動の練習にかかる移動費を支援

# 当面の課題と今後の展望

- 学校は、従来の教育活動に戻りつつある一方で、依然として様々な課題がある

## 主な課題

- ・学校施設の防災機能を見直すなど、ハード面における防災体制の充実を図る必要がある
- ・今回の地震からの復旧・復興には、誰一人取り残さないよう学びの機会を提供するとともに、学びを通して、地域に貢献する人材を育成することが重要である

- 復興の前提となる学校施設の復旧を進める
- 避難所としての機能を兼ね備えた学校施設の機能向上を図る
- 今般の地震を契機に、能登地域の自然や歴史、文化、産業などを改めて学ぶことで、ふるさとの価値を実感するとともに、国内外の生徒等との交流や課題解決型学習を進めることで、能登の復興を担う人材を育成する（創造的復興教育の推進）
- 児童生徒の災害対応能力を高める教育を推進する（発達段階に応じた防災教育の推進）
- 児童生徒や保護者への心のケアを継続的に実施する など

こうした課題への対応は、新たに策定する「石川県創造的復興プラン（仮称）」にも位置付け、中長期的な視点を踏まえた取り組みとして、ハード・ソフト両面から実施